

5 - 9 東海地域における地殻変動観測  
- 瑞浪観測点・石英管伸縮計による歪観測  
(1983年7月～1989年4月) -

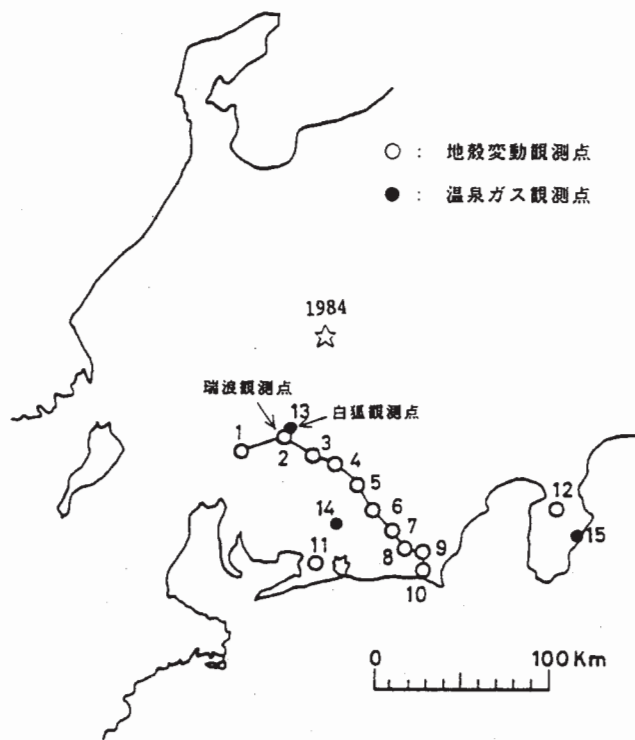
**Crustal Measurement Observation in the Tokai District  
- Observation of Crustal Strain by Silica Tube Strainmeters  
at Mizunami Observatory (1983, 7 - 1989, 4) -**

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

東海地殻活動観測線上にある瑞浪観測点（第1図）について、石英管伸縮計による歪連続観測の結果（第2, 3, 4図）とその記録の特徴を報告する。

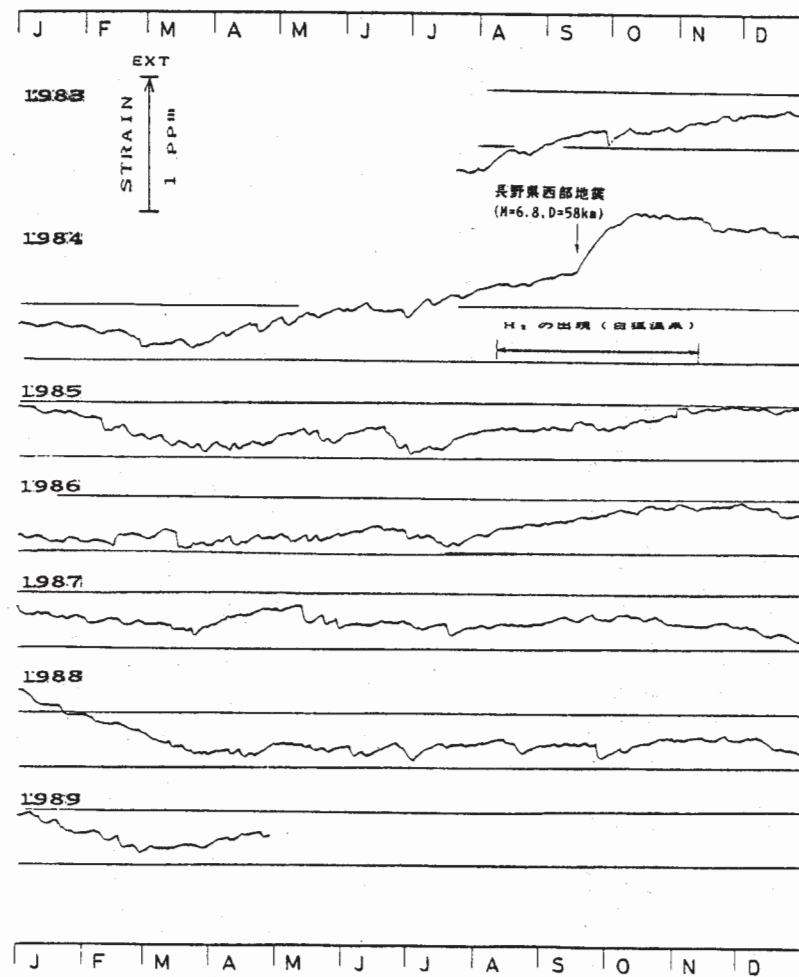
- (1) 東西成分：1984年を除くと、年周変化が0.3ppm以内で、降雨による短期変動は0.1ppm以下である。しかし、1984年はそれ以後と比べ大きな変動があったことがわかる。特に、長野県西部地震の余効変動を顕著に見ることができる。
- (2) 北東成分：年周変化や降雨による影響は、上記の東西成分に比べその半分以下である。全体の傾向としては時間とともに縮みの傾向を示すが、長野県西部地震の直後と1986年10～12月期は伸びの傾向を示している。
- (3) 北西成分：年周変化が顕著で、その量は1ppmにもおよぶ。1986～87年はその前後の年と比べ変動パターンが明瞭に異なっている。



第1図 東海地殻活動観測線の観測点配置図

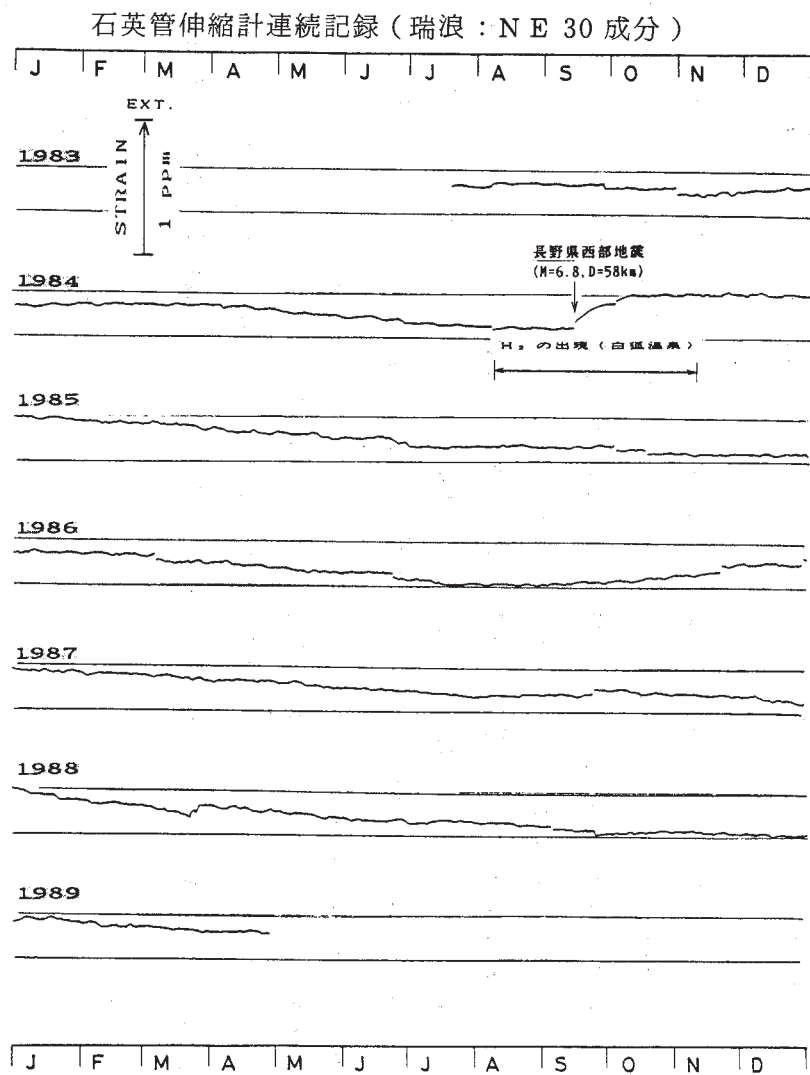
Fig. 1 Location of the stations for crustal movement in the Tokai district.

石英管伸縮計連続記録 (瑞浪 : E W 30 成分)



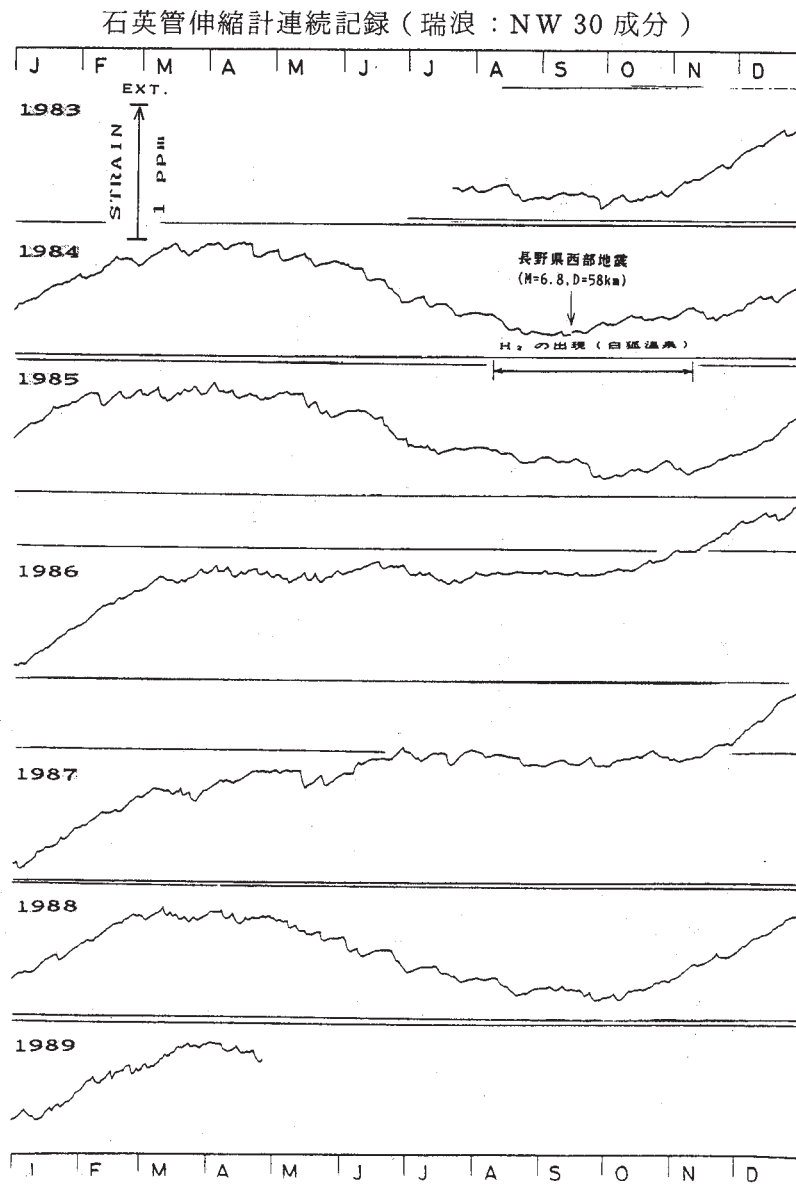
第2図 瑞浪観測点における東西成分地殻水平歪の時間的变化

Fig. 2 Crustal strain with east-west component at Mizunami observatory.



第3図 瑞浪観測点における北東成分地殻水平歪の時間的变化

Fig. 3 Crustal strain with north-east component at Mizunami observatory.



第4図 瑞浪観測点における北西成分地殻水平歪の時間的变化

Fig. 4 Crustal strain with north-west component at Mizunami observatory.